

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072200373
法人名	医療法人 かつき会
事業所名	グループホーム ゆうゆう
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市下浦715 (電話) 0946-22-6191
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年2月9日

## 【情報提供票より】(平成22年1月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

### (4) 利用者の概要(平成22年1月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月病院、甘木病院(精神科)、ほりお歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表が、母体である病院に入院する高齢者の退院後の療養の場として、また安心して生活できる場として、7年前に立ち上げたホームである。4階建て施設の3階部分をグループホームとして改装している。外観と異なりホーム内は落ち着いた和風の趣きで、各居室・リビングとすべての部屋に窓が大きくとられ、窓外には慣れ親しんだ町並みや田園風景が広がり、穏やかに安心して生活ができる雰囲気である。ホーム玄関は病院の裏手にあり分りにくいですが、病院と直結した出入りが別があり、多くはこちらを利用している。家族や近所の知り合いの方など日常的に気軽に訪問できる雰囲気である。管理者は管理業務の経験は浅いが、開設以来ホームでの介護に携わっており、利用者・家族との信頼関係ができています。計画作成担当者は夜間業務にも携わり、利用者の24時間の状態把握に努めるなど、認知症介護に対する思いが伝わってくるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価については運営推進会議で結果報告をし、徐々にではあるが改善に向けての取り組みが見られる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は自己評価によって自分たちがしていることへの再確認ができ、外部評価によって自分たちには見えないところが見え、改善につなげられるものであると理解している。職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者と計画作成担当者でひとつにまとめ、さらにそれを全職員で確認し合っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、市の介護サービス課・区長・民生委員・家族・母体法人の看護師が参加し行なわれる会議では、ホームの現状報告、外部評価の報告を行い、質問や要望内容など確認している。また、運営や制度上の相談などは必要に応じて行政に出向き、指導助言をもらうなどしながらサービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 2ヶ月に1回、ホームの「ゆうゆうだより」を発行している。毎月の利用料請求書発送時には、担当職員が手書きした利用者個人の近況報告が添えられている。職員の異動などに関しては家族の訪問時や「ゆうゆうだより」で報告している。預かり金に関しては家族の訪問時に報告をし、印鑑・サインをもらっている。家族への連絡や報告はしっかり行われ、職員間も連携をとり、家族が意見など言いやすい雰囲気をつくるように努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの菜園があり、そこの草取りを近所の方がしてくれたり、散歩途中に立ち寄る保育園での園児との触れ合いや、お寺の彼岸説法を聞きに行くなど地域との交流がある。地域の文化祭へは利用者の作品を出展し、母体法人主催の敬老会には地域の方も招待し参加してもらっている。行政区長と話し合い、新たな活動として地域内の空き缶拾いの取り組みも始めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の管理者、施設長、ほか職員で話し合い、“ゆうゆうとゆったり”地域との連携を保ちながら生活の継続ができるようにとの理念がつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング時には必ずホームの理念について話し、ホーム内に理念を掲示するとともに、日々の業務においても理念の実践にむけて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの畑の草取りを近所の方がしてくれたり、散歩途中に保育園に立ち寄っての園児とのふれあいや、お寺の彼岸説法を聞きに行くなど、地域との交流がある。地域文化祭へは利用者の作品を出展し、母体法人主催の敬老会には地域の方にも参加してもらっている。行政区長と話し合い、新たに地域内の空き缶拾いへの取り組みも始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により、自分たちがしていることへの再確認ができ、外部評価により自分たちには見えていないところが見え、改善につなげられるものであると理解している。職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者と計画作成担当者で一つにまとめ、全職員で確認している。前回評価に対しては徐々にではあるが改善に向けての取り組みが見られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の介護サービス課・区長・民生委員・家族・母体法人の看護師が参加して開催している。ホームの現状報告や外部評価の報告をし、それに関する質問や要望を確認したりながらサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や制度上の相談、問い合わせや提出書類の確認など、必要に応じて行政窓口に出向き、指導助言をもらいながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料をファイルし、運営推進会議で勉強会を行っている。制度利用について必要な人へのアドバイスは母体法人のソーシャルワーカーが対応できるようにしている。	○	権利擁護についてホーム職員が学ぶ機会を設けられることに期待したい。また、利用者家族がいつでも制度についての情報に触れられるようホーム内へのパンフレットやポスターの設置に期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回「ゆうゆうだより」を発行している。毎月の利用料請求書発送時には担当職員手書きの近況報告が添えられている。職員の異動などに関しては面会時や「ゆうゆうだより」で報告している。預かり金に関しては家族の訪問時に報告し、印鑑、サインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情受付担当を決めて対応できるようにしている。家族の訪問時には職員から家族に対し積極的に声かけをし、会話の中から意見や苦情が言い易いような雰囲気作りに努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や担当替えがある場合は、利用者の性格や習慣を把握している職員からアドバイスをもらい、支障がないように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に際して性別、年齢による排除はなく、現在20歳代から60歳代の職員が在職している。手芸など職員それぞれの得意分野での能力を活かせるようにしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内職員の目に付くところには人権や接遇についての資料を張り、啓発に努めている。自治体の人権研修に参加し、ミーティング時にその内容を伝達している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行われる母体法人の院内研修に参加している。グループホーム部会やスタッフセミナー、外部研修への参加機会もあり、全職員が公平に学べる機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回行われる市のグループホーム協議会の交流やスタッフセミナーに参加し、互いの情報交換や学びあいを通してサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の入院病棟から入居にいたるケースが多く、利用者、家族共に病院の3階に移るといふ感覚である。入居が決まった際にはおやつの時間にホームで過ごしていただき、他の利用者や職員と馴染めるように交流する機会をつくっている。一人部屋で不安を感じる利用者には家族とも相談をし、頻回の訪室や和室で過ごしていただくことを試みるなどの対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の関わりの中で利用者から常に沢山のことを学ばせてもらっていると感じている。職員の落ち込んだ様子を察知し、すぐに場の雰囲気を変え、笑いを起こそうとされる利用者からは癒されることが多く、互いに支え、支えられる関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時、本人や家族に暮らし方の希望や意向を聞いています。困難な場合は、担当者を中心に日常生活の中でよく観察して、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族から希望や意向をよく聞くと共に、主治医や看護師からも情報収集を行い、担当者会議を開いて介護計画を作成している。計画作成担当者は夜間勤務も行い、利用者の24時間の行動把握に努めている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標を6ヶ月に設定し、3ヶ月に1回モニタリング、評価を行っている。変化が生じた場合は、担当者会議を開催、医療関係者とも相談して現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	眼科、内科、整形外科等は同一建物の病院で受診している。歯科は必要に応じてホームに往診がある。女性利用者の髪の毛のカットは地域の美容院から定期的に来訪がある。男性利用者の散髪は近くの理髪店に車いすや歩行介助で支援している。また、遠方の家族の希望があれば宿泊も受け入れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは医療法人が経営しており、ビルの1、2階は医療施設、3階がホーム、別棟に通所リハビリセンターがある。利用者のほとんどが法人施設の利用者であるため、かかりつけ医もそのまま継続している状態になっている。家族からは「病院と同じ建物に入っているため安心」との声が多い。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期のあり方について説明を行ない、意向を聞いている。かつて一名、医療関係者、家族と話し合いを重ね、家族もホームに宿泊して、看取りを行ったことがある。医療機関と同じ建物に入っているため、終末期の看取りが行いやすい環境にある。病院とは緊急時の直結コールが設置されている。今後もホームでの終末の希望があれば、受け入れることを全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る際は声かけをしたり、トイレ誘導時には他の利用者に聞こえないように耳元で話しかけるなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応を行っている。介護記録等の個人情報は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時には声かけを行うが、無理に起こすようなことはしていない。朝食時間も希望に添うようにしている。一日の大まかな流れはあるが、利用者の希望、その日の状態によって対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は病院の厨房で作ったものをホームに運び、利用者と共に配膳している。ミキサー食、キザミ食、柔飯など、利用者の状態に合わせている。月に1回、日曜日は利用者の希望に添った献立で、調理の下準備から利用者と一緒にホームで調理している。昼食は弁当持参の職員も、検食を行っている職員も利用者と一緒に摂っていない。	○	夜勤者は利用者と同じ食事を摂っている。昼食は介助が必要な利用者にはそばについて介助している。職員は料金や好みの理由により弁当を持参しているが、グループホームの特性を踏まえて利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームと同じ階にある大浴場で木・土曜日に入浴している。利用者は大きな浴槽でのびのびと入浴している。週2回以上を希望する方や排泄を失敗した場合にはホームに設置している浴室を使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での野菜づくり、配膳、下膳、洗濯物たたみ、包布交換、モップ掛け等々、利用者の得意な事、好きな事をその日の体調に合わせて行えるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑での作業、近くにある寺へのお参り、桜やコスモスなどの花見などの支援を行っているが、ホームが3階に位置していることもあり外出の機会が少ない。	○	一度に多人数でなくても、短時間でも利用者のその日の希望にそって、戸外へ出かけられる支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる19時から朝の7時までには鍵をかけているが、昼間はホーム玄関や非常口には施錠をしていない。ドアが開くとセンサーが感知し、鳥のさえずりが聞こえるようになっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回消防署の協力を得て、昼間・夜間想定で出火場所を変えて防火訓練を行っている。居室の入口には部屋番号及び車いす・歩行等、利用者の身体状況が誰にでもわかるように貼ってある。その他、ホーム独自でマニュアルに沿っての流れを全体で確認するため、年3回訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は病院の厨房で栄養バランスを考えた食事を作っている。食事及び水分の摂取量は毎食記録している。体重測定も月1回行い、必要に応じて医療との連携を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院を改装しているので窓が大きく、リビングは明るい。共有空間には和風の建具や調度品が置かれている。また、利用者と一緒に作成した季節の花が壁に飾られたり、紙を丸めたのれんが下がっており、家庭的な雰囲気があった。1段高いところに畳の部屋があり、利用者はソファや畳の上など自分の好きなところでくつろいでいた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>病室をリフォームした居室は明るく、トイレと洗面所は各居室、或いは二部屋に1個設置されている。居室には広いもの入れがあり、ベッドと寝具類はホームの備品であるが、テレビ・ラジオ・タンス・仏壇・テーブルセット等なじみのものを持ち込み、生活感があふれている。たたみの部屋もある。</p>		